

重要ポイント

◎平氏の滅亡

平氏は朝廷を思うままに動かすようになったため、貴族や寺社、地方の武士は平氏に対する反感を強め、諸国の源氏が立ち上がった。源頼朝は弟の源義経を送って平氏を攻めた。義経は平氏を追いつめ、1185年に壇ノ浦(山口県)で平氏をほろぼした。

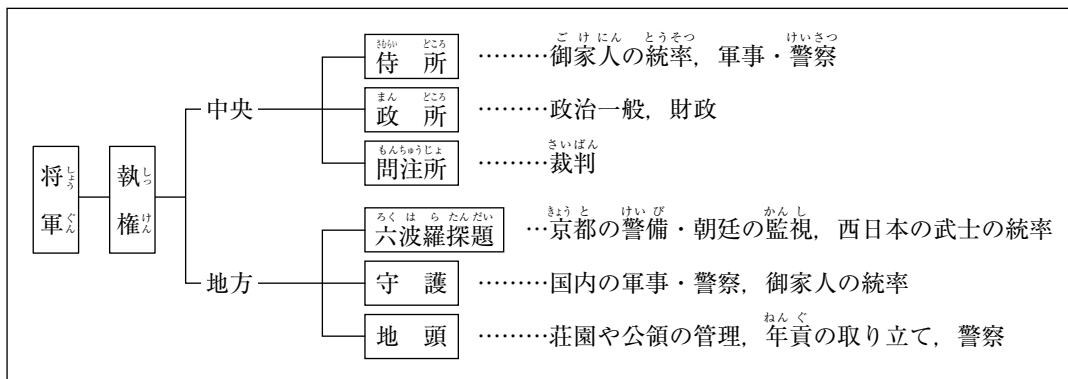
- * 源義仲…木曾(長野県)で挙兵した。
- * 源頼朝…鎌倉(神奈川県)を本拠地とし、関東地方を支配した。
- * 源義経…源頼朝に命じられ、平氏をほろぼした。

◎鎌倉幕府の成立

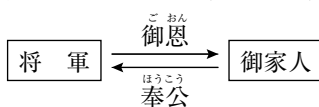
平氏をほろぼしたあと、源頼朝と源義経は対立した。頼朝は義経をとらえることを口実に、国ごとに守護を、荘園や公領ごとに地頭を置くことを朝廷に認めさせた。義経は東北地方の豪族奥州藤原氏のもとにのがれるが、藤原氏は頼朝にほろぼされた。

1192年、朝廷から頼朝は征夷大將軍に任じられ、これにともなって政治のしくみを整えた。頼朝が開いた幕府を鎌倉幕府という。

- * 鎌倉幕府…頼朝が始めた武家政権。鎌倉に幕府が置かれた時代を鎌倉時代という。
- * 鎌倉幕府のしくみ(承久の乱後のもの)



- * 封建制度…土地を仲立ちとする主従関係



- ・ 御家人…将軍と主従関係を結んだ武士。
- ・ 御恩…将軍は御家人の領地を保護し、新しい領地をあたえる。守護・地頭に任命する。
- ・ 奉公…将軍に忠誠をちかい、鎌倉や京都の警備を行う。戦いのときには命がけで軍役を果たす。

◎執権政治

源頼朝の死後、頼朝の妻北条政子の実家である北条氏が将軍の力を弱め、執権という地位について政治の実権をにぎった。このような政治を執権政治という。

◎承久の乱

鎌倉幕府の第3代将軍源実朝が暗殺されると、源氏の将軍が絶えたため、1221年、後鳥羽上皇は幕府をたおして朝廷の力を回復させようと承久の乱を起こした。しかし、幕府は大軍を送ってこれを破り、後鳥羽上皇を隠岐(島根県)に流した。その後、幕府は京都に六波羅探題を置き、朝廷を監視し、西日本の武士の統率にあたらせた。幕府は上皇に味方した貴族や西日本の武士の土地を没収し、新たに東日本の御家人をその土地の地頭として任命した。こうして、幕府勢力は西日本までのび、支配力は全国に広がった。

〈資料〉北条政子の演説…御家人たちに将軍の御恩を説いて、結束して幕府を守ることをうったえた。

みなの方、よく聞きなさい。これが最後の言葉です。頼朝公が朝廷の敵をたおし、幕府を開いてこのかた、官職といい、土地といい、その恩は山より高く、海より深いものでした。みながそれに報いたいという志はきっと浅くないはずで、名誉を大事にする者は、京都に向かって出陣し、逆臣をうち取り、幕府を守りなさい。もしも上皇の味方になりたいのなら、今はっきりと言いなさい。 (「吾妻鏡」より)

◎御成敗式目(貞永式目)…1232年、執権の北条泰時が定めた、御家人に裁判の基準を示す法律。武家社会の慣習にもとづいて定められたため、武士の法律の手本とされた。

- 一、諸国の守護の職務は、頼朝公の時代に定められたように、京都の御所の警備と、謀反や殺人などの犯罪人の取りしまりに限る。
- 一、武士が20年の間、実際に土地を支配しているならば、その権利を認める。
- 一、女性が養子をとることは、律令では許されていないが、頼朝公のとき以来現在に至るまで、子どものない女性が土地を養子にゆずりあたえる事例は、武士の慣習として数え切れない。

【練習しよう】

次の問いに答えなさい。

- (1) 1185年、源義経が壇ノ浦でほろぼしたのは何氏か。
- (2) 源頼朝が開いた幕府を何というか。
- (3) 源頼朝の死後、北条氏は何という地位について政治の実権をにぎったか。
- (4) 後鳥羽上皇が幕府をたおして朝廷の力を回復させようと起こした乱を何というか。
- (5) (4)のあと、京都に置かれた役所を何というか。
- (6) 1232年、北条泰時が定めた法律を何というか。

解答

- (1) 平氏 (2) 鎌倉幕府 (3) 執権 (4) 承久の乱 (5) 六波羅探題 (6) 御成敗式目(貞永式目)